

ミニボートフェスティバル 2013 東京運河クルーズレポート

- 実施日:2013年8月4日(日)
- 場 所: 大島小松川公園(集合・解散)
- コース:江東内部河川内(大島小松川公園棧橋⇒旧中川⇒北十間川⇒横十間川⇒小名木川)
- 対 象:(1)ミニボートオーナー／(2)地域住民の方々
- 主 催:一般社団法人日本マリン事業協会ミニボートフェスティバル2013実行委員会
- 後 援:国土交通省関東運輸局、一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会
公益財団法人マリンスポーツ財団
- 協 力:江戸川区、江戸川区ボート協会、(有)フレンディー BeFriends

【報告】

日本マリン事業協会ミニボート安全委員会発案、主導の下、2013年8月4日(日)、上記江東内部河川内において「ミニボートフェスティバル2013東京運河クルーズ」を開催しました(主催:ミニボートフェスティバル2013実行委員会)。この「夏休みの1日を親子そろってミニボートでスカイツリークルージングを楽しむ」という謳い文句を付けられたこのイベントの目的は、

- 1)地域住民へのマリンレクリエーションへの理解促進を図り、河川における安全で適正な利用のためのルール、マナーの啓発等を行い、親水思想の普及に努める。
- 2)親子で楽しむレクリエーションとして、身近な水辺でのクルージングを体験してもらい、余暇の充実、家族での有意義な時間を持つことの具体的な事例としての提示。
- 3)水辺での安全な遊び方やライフジャケットの有用性、着用の仕方などの理解を促進する。
- 4)既存下架施設の合法的かつ恒常的活用への布石作業

といったもので、ミニボートの認知度アップ、ミニボート環境の充実のための布石作業というテーマも、東京の運河エリアの利用も含めて初めて尽くしのミニボートフェスティバルでありました。

このミニボートフェスティバルは、親子で参加できるミニボートオーナーを対象とした「スカイツリークルージング」と、一般の人たちを対象にした「キッズボート体験試乗会」の2つの体験型メニューで実施しました。「スカイツリークルージング」は、9時前後には、オーナー艇及び伴走艇13隻、31名の親子参加者、関係者が集まり、それぞれ大島小松川公園棧橋から旧中川にボートを浮かべ、コース説明と安全のための注意事項の説明を受け、乗船。10時には心配された混乱もなく、微速で進む先導艇の後ろに整然と並びながら出航しました。

ほとんどの参加者は東京の運河を走るのは初めてということもあって、非常にゆっくりとした速度にも焦れることなく、のんびりと周囲の景色を眺めながらのクルージングを楽しんでいました。東京スカイツリーにもっとも近づく北十間川西部には、スカイツリーをバックに写真を撮るベストポイントがあり、参加者は子供とスカイツリーと一緒に収まった写真を数多く撮っていました。

河岸が遊歩道として整備されている横十間川に入ると、予想以上に河岸から釣りをしている人が多く、川面を行き交う競技カヌーやカヤックもいて、ところどころに浅瀬もあり、思わぬ安全航行実習の時間となりましたが、参加者は落ち着いてクルージングを楽しんでいました。

途中で接岸できる場所を見つけて、各自給油をする予定でしたが、釣り人が多く、接岸すると竿や釣り糸をめぐってトラブルが起きそうだったため、そのまま航行。給油場所は横十間川と小名木川が交差するクローバー橋下の栈橋としました。

しかしクローバー橋下の栈橋にも釣り人がかなりいたので、釣り人のいない付近の岸壁のフェンスに臨時係留して、給油することにしました。

トイレは近くにありましたが、暑い日だったせいか、トイレを必要とする参加者もなく、給油も無事終了したフリートは、出港地であり、帰港地でもある大島小松川公園栈橋に向かって、小名木川を20分ほど東進。旧中川に入ったところでは、水陸両用の観光バス「スカイダック」が水上を走っているところに遭遇、ミニボートの子供たちは大喜びで、バスに向かって手を振っていました。

12時には大島小松川公園栈橋に帰港し、集合写真の撮影を終えると、全員手際よくボートを撤収しました。

クルージング中は、沿岸を歩く人々がミニボートのフリートに驚きながらも、うらやましそうに見ていたのが印象的でした。周辺の住民に対しては、目的の一つであった「ミニボートの認知度アップ」につながっている手応えは十分でした。今後は、TVや新聞をはじめとするマスメディアにもっと採り上げてもらえるような準備と仕掛けが必要なことも感じました。

参加艇数は、「親子」と限定したことで予想より少なくなったようです。実際は、東京の運河クルージングを経験したことのある人は非常に少なく、大人だけでもスカイツリークルージングを楽しんでみたいというミニボートオーナーも多いと思われます。

ただ、今回の艇数でも、体験乗船用のキッズボートと同じ栈橋を使用したところ、栈橋がかなり混雑したという状況もあり、参加艇が多いと、栈橋上での混乱やクルージング中のフリートの安全管理が難しくなるなどの場面も予想され、次回開催に当っては、参加資格、受け入れ体制など、より検討が必要です。

ボート操船者への河岸の釣り人に対する強い注意喚起も必要ことがわかりました。参加艇が増えると、釣り人の釣竿は必ずトラブルの種になるでしょう。

キッズボート体験試乗会は、事前の告知があまりできませんでしたが、当日に小松川公園周辺でチラシを配ったりしたところ、のべ70人の、年齢や性別がさまざまな体験乗船希望者が集まり、キッズボートで大島小松川公園栈橋から出て荒川ロックゲート前まで行って帰ってくるコースで、小さなボートで運河を走る楽しさを体験しました。いずれの参加者も、予想以上の爽快感と水面から見る陸上の景色の新鮮さに驚きとうれしさを隠さずにいました。

当初の目的の一つであった「既存下架施設の合法的かつ恒常的活用」という面では、小松川公園に隣接する河岸のスロープや防災栈橋をミニボートが利用することは、行政(区役所)からは明確には禁止されていないものの、自由に利用してもいい、との規定もなく、非常にグレーな状況でした。現実には、(カヌーやドラゴンボートなどの)地元クラブの施設以外でミニボートを下ろしている人も何人かいるとのことで、公園の駐車場を利用して、ほかの人の迷惑にならないかぎり黙認されているようでした。

いずれにしても、利用にあたっての管理システムはなく、「合法的かつ恒常的活用」のためには、行政に対してミニボートが利用する際の管理システムの提案が必要と思われます。地元のカヌー協会やボート協会を巻き込んだ根回しが不可欠になるでしょう。

ミニボート安全委員会としては、ミニボートの認知度アップのために来年も継続させたいという思いを強くしたイベントでした。

以上、開催報告でした。







